

平成27年度 事業報告

公益社団法人 日本ホッケー協会

公益社団法人日本ホッケー協会は、我が国におけるホッケー界を統括し代表する団体として、ホッケー競技の普及及び振興を図り、もって国民の体力の向上とスポーツ精神の涵養に寄与することが目的であり、以下に記載の事業を、この目的を達成するために行った。

平成27年度においては、男子日本代表が6月にアルゼンチン開催された「男子ワールドリーグセミファイナル」において8位という成績に終わりリオデジャネイロオリンピックに出場する目標が絶たれた。一方、女子日本代表は6月下旬にベルギーで開催された「女子ワールドリーグセミファイナル」において6位となり、「2016 リオデジャネイロオリンピック」出場を決めた。

併せて、ホッケー競技の普及に必要な財政基盤の確立と、公益法人として相応しい組織運営に努めた。

<平成27年度 基本8策>

(1) スポーツの楽しさ・素晴らしさを求めるスポーツ少年団から、生きがいのある社会の形成と、健全な

心身の維持・向上に寄与するマスターズに至るまで、ホッケー競技人口増加を目指し、普及と指導者

の育成に努める。

(2) 「2020 東京オリンピック」に向けて、ジュニア層からの強化に精力を注ぎ、一貫指導体制のカテゴリー

を精査して、スタッフの人選及び指導方針を確立させ、充実した強化体制を構築する。

(3) オリンピック、ワールドカップ等の国際競技大会への派遣を視野に入れた、男女国際審判員の養成

と充実を図る。

(4) 「2020 東京オリンピック」開催決定を好機に、ホッケー競技が日本国内に浸透するよう機能的かつ

効果的な広報活動に努める。

(5) 国際ホッケー連盟 (FIH)、アジアホッケー連盟 (AHF) 及び各国協会と密接な連携を行い、諸外国と

積極的に交流を図ると共に、国際各種委員会委員の委嘱が受けられるよう努める。

(6) アンチドーピングや環境問題の啓発と実践に積極的に取り組む。

(7) 長期的な収入基盤確立のため、スポンサー獲得に積極的に取り組む。

(8) 倫理委員会にスポーツ指導における暴力行為に関する相談窓口の設置や、処分基準ガイドライン

を策定する。

1. ホッケー競技会の開催に関する事業【公1】

(1) 全国レベルの競技会（全国大会）の主催、共催

全国レベルの競技会を主催または開催し、ホッケー競技を通じた全国大での交流を促進すると共に、各地域、団体の代表が一堂に会し、競技力の向上を図る機会を創出した。

○開催競技会数：11 競技会

「高円宮杯 2015 女子日本リーグ」 主催：ホッケー日本リーグ機構、JHA

開催場所：日本各地

「高円宮杯 2015 男子日本リーグ」 主催：ホッケー日本リーグ機構、JHA

開催場所：日本各地

「第 34 回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」 共催：関東学生ホッケー連盟、JHA

開催場所：飯能市阿須ホッケー場、駿河台大学ホッケー場（埼玉県／飯能市）

「男子第 78 回・女子第 57 回全国高等学校ホッケー選手権大会」 共催：京都ホッケー協会、JHA

開催場所：グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場（京都府／船井郡京丹波町）

篠山総合スポーツセンター人工芝グラウンド（兵庫県／篠山市）

立命館大学茨木ホッケー場（大阪府／茨木市）

「男子第 57 回・女子第 37 回全日本社会人ホッケー選手権大会」 共催：岩手県ホッケー協会、JHA

開催場所：岩手町ホッケー場、岩手町総合グラウンド（岩手県／岩手郡岩手町）

「第 13 回全日本マスターズホッケー大会」 主催：富山県ホッケー協会、JHA

開催場所：小矢部ホッケー場（富山県／小矢部市）

「第 70 回国民体育大会ホッケー競技」 共催：和歌山県ホッケー協会、JHA

開催場所：紀美野町スポーツ公園多目的人工芝グラウンド（和歌山県／紀美野町）

マツダスポーツグラウンド（和歌山県／日高町）

「男子第 64 回・女子第 37 回全日本学生ホッケー選手権大会」 共催：関西学生ホッケー連盟、JHA

開催場所：立命館大学茨木ホッケー場（大阪府／茨木市）

天理大学親里ホッケー場（奈良県／柚之内町）

「第 76 回全日本女子ホッケー選手権大会」 主催：広島県ホッケー協会、JHA

開催場所：広島広域公園第二球技場（広島県／広島市）

「第 89 回全日本男子ホッケー選手権大会」 主催：奈良県ホッケー協会、JHA

開催場所：天理大学親里ホッケー場（奈良県／柚之内町）

「第 47 回全国高等学校選抜ホッケー大会」 共催：岐阜県ホッケー協会、JHA

開催場所：岐阜県グリーンスタジアム（岐阜県／各務原市）

(2) 国際レベルの競技会的主催、共催

競技会を開催し、ホッケー競技を通じた国際交流を促進すると共に、競技力の向上、大会運営力の向上を図る機会を創出した。

2. ホッケー競技の普及、指導者の育成に関する事業【公1】

スポーツ少年団ホッケー交流大会では、ホッケー競技の楽しさと喜びを体験し、より優れた技能と

スポーツマンシップを身につけるための研修の場とし、試合後にお互いを讃えるセレモニーを行い、団員相互の交流を深め、仲間意識の連携を高めることに貢献した。

全日本中学生ホッケー選手権大会では、中学校教育の一環として、ホッケー競技を通じた実践の場を与え、技術の向上とアマチュアスポーツ精神高揚を図ることに貢献した。

全日本中学生都道府県対抗 11 人制ホッケー選手権大会では、将来のオリンピック選手を育成するために実践の機会を与え、競技力の向上と心身ともに健全な中学校生徒の育成と生徒相互の連携を図ることに貢献した。

ホッケー日本リーグでは、トッププレイヤーによるジュニア教室を開催し、ホッケー技術の向上心を刺激する機会を創出した。

(1) 公認上級コーチ養成講習会専門科目講習会（ホッケー競技：全期）

主催：公益財団法人日本体育協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所：山梨学院ホッケースタジアム

開催期間：2015 年 12 月 25 日～27 日

目的：ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代から選抜された競技者の育成強化にあたり、国際大会等の各競技大会における監督・コーチとして競技者が最高の能力を発揮できるように、強化スタッフとして組織的な指導にあたる指導者を養成する。

(2) 公認コーチ養成講習会専門科目講習会（ホッケー競技：前・後期）

主催：公益財団法人日本体育協会、公益社団法人日本ホッケー協会

<前期>開催場所：駿河台大学ホッケースタジアム

開催期間：2015 年 6 月 19 日～21 日

<後期>開催場所：天理大学体育学部

開催期間：2016 年 1 月 9 日～11 日

目的：各地域において、競技者育成のための指導にあたり、広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたり、広域スポーツセンターの巡回指導に協力し、より高いレベルの実技指導を行える指導者を養成する。

(3) 指導教本の販売

名称：ホッケー指導教本／発行日：2013 年 8 月 29 日（改訂版）

販売単価：1 部につき 2,000 円

目的：各年代の発育段階に応じた適切な指導方法を普及させる。

【ホッケー競技の普及に関する取り組み】

- 各ブロック協会（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）との連携により、中長期的な視野に立った根本的な普及策を模索、検討し、その上で必要な施策を実施した。
- （公財）全国中学校体育連盟への加盟推進や、スポーツ拠点づくり推進事業の継続支援を通じて、中学校世代の更なる普及と発展を図る。また、全国大会及び予選大会を通じて、「マウスガードの義務化」を行うなど、成長期の生徒達に対する安全面への配慮について継続した取り組みを行った。
- マスターズ年代の諸活動を充実させることで、生涯スポーツとしての方向性を確立すると共に、地域における社会人組織の活性化を図った。

- 各都道府県協会と協働して、総合型地域スポーツクラブとの連携を図り、発展的な普及活動を模索した。
- 各ブロック協会（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）のブロック長会議と国内交流部会の役割を再認識し、其々の機能を分離させ、会議を単独開催とすることにより、効果的な組織運営を行った。

【指導者育成に関する取り組み】

- スポーツ少年団の活動指針である「発育と発達」に基づく指導を呼び掛け、ホッケーの楽しさを子供達に伝えた。
- 公認指導者講習会を実施し、指導者の養成と指導技術の向上を図った。また、既資格取得者の資格更新システムを確立し、指導者が常に学ぶことの出来る機会を検討した。
- 国民体育大会をはじめ、(公社)日本ホッケー協会主催大会へ出場するチーム指導者への公認指導資格の義務付けを厳守させる。その為に、各都道府県で受講出来るよう、公認指導員及び上級指導員資格取得養成講習会の開催促進に取り組んだ。
- 一貫指導者教本に基づいた正しい指導を広く実践した。また、有資格指導者を組織化し、指導に関する情報を共有できる機能を整備した。
- U-21までの指導体系を確立させ、シニア代表への意欲を持たせた。
- U-21までの海外派遣の機会を効果的に行い、「2020東京オリンピック」を見据えた選手強化に併せて、海外における指導情報の収集を図った。

3. ホッケー競技の競技力の向上に関する事業、並びにホッケー競技の国際競技大会等に対する代表参加者の会等に対する代表者の選定及び派遣に関する事業【公1】

(1) 選手強化

■競技者支援

(独)日本スポーツ振興センター「アスリート助成」を受け、対象競技者に向けた財政支援を行った。

■強化合宿、海外遠征

国内強化合宿（シニア男子）／年7回実施、国内強化合宿（シニア女子）／年12回実施

国内強化合宿（ジュニア男子）／年4回実施、国内強化合宿（ジュニア女子）／年3回実施

国内強化合宿（ユース男子）／年1回実施、国内強化合宿（ユース女子）／年1回実施

海外遠征（シニア男子）／年5回実施、海外遠征（シニア女子）／年6回実施

海外遠征（ジュニア男子）／年1回実施、海外遠征（ジュニア女子）／年2回実施

海外遠征（ユース男子）／年1回実施、海外遠征（ユース女子）／年1回実施

日韓競技力向上スポーツ交流（ユース男子・ユース女子）／年1回実施

(2) 国際競技大会への代表参加者選定及び派遣

「男子ワールドリーグセミファイナル」（シニア男子）／開催国：アルゼンチン

開催期間：6月3日（水）～6月14日（日）

「女子ワールドリーグセミファイナル」(シニア女子) /開催国:ベルギー

開催期間:2015年6月20日(土)~7月5日(日)

「第7回女子ジュニアアジアカップ」(ジュニア女子) /開催国:中華人民共和国

開催期間:2015年9月5日(土)~9月13日(日)

「第1回男子AHFカップ」(ユース男子) /開催国:バングラディッシュ

開催期間:2015年10月3日(土)~10月11日(日)

「第8回男子ジュニアアジアカップ」(ジュニア男子) /開催国:マレーシア

開催期間:2015年11月14日(土)~11月22日(日)

(3) 医科学サポート

国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿においてドクターやトレーナーを派遣、またドーピング検査を実施した。

(公財)日本アンチドーピング機構発行の冊子を与え、啓蒙活動を行った。

【ホッケー競技の競技力の向上に関する取り組み】

- 男子代表チームに海外からのヘッドコーチを招聘した。
- 男女ジュニア、ユース、ジュニアユース日本代表を恒常的に編成し、年代別一貫指導強化体制の下に、其々が「2016 リオデジャネイロオリンピック」、そして「2020 東京オリンピック」においてメダル獲得を念頭に入れた積極的な強化活動を実施し、国際競技力向上に繋げた。
- 一貫指導システムを具体化する方策として、競技者育成プログラム「ホッケーゴールドプラン」を段階的に始動、選手過程をレベル1(都道府県単位)・レベル2(ブロック)・レベル3(東・中・西地区)・レベル4(ナショナル)の4段階の選考を行った。
- スポーツ基本法を具体化した、国立スポーツ科学センター(JISS)の、ジュニア期からトップレベルに至るまでの発掘・育成・強化に対するスポーツ医・科学・情報面からの高度な支援、国際競技大会におけるコンディショニング調整など効果的にJISSの指導を受け、内外の情報分析と医科学的見地を取り入れた代表チーム・選手個々人の競技力向上を図った。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)及び国際ホッケー連盟(FIH)と緊密に連絡を取り、アンチドーピングの周知徹底を図り、居場所情報や合宿時における講習会等を実施した。選手指導者に協力と義務を認識させた。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)の指導の下、国内主要大会においてドーピング検査を実施した。指導者にドーピング検査への協力徹底と、国内のドーピングコントロールオフィサー(DCO)の養成を図った。

【ホッケー競技の国際競技大会等に対する代表参加者の会等に対する代表者の選定及び派遣に関する取り組み】

- 男女日本代表チームの国際競技力向上を図り、女子日本代表チームは「2016 リオデジャネイロオリンピック」出場権を獲得した。において、「2016 リオデジャネイロオリンピック」メダル獲得の目的目標を達成するための強化を図った。男子日本代表チームについては出場権を獲得できなかった。

■国際競技力の向上を図り、国際ホッケー連盟（FIH）の主導するワールドレベルのランクアップを目指した。

■国際競技会への各年代層代表チームの選手選考基準を設け、派遣事業の円滑化を図った。

4. 登録制度の拡充に関する事業【公1】

(1) 登録情報のデータ化と登録証の発行

選手、チーム役員、競技役員の登録事務手続きの簡素化、情報管理精度の向上を図るために、情報をデータ化し、一元的に管理するシステムの構築に着手。登録情報を基に全ての選手、チーム役員、競技役員に登録証を発行した。

○発行数：選手 10,674人、チーム役員 3,653人、競技役員 1,181人

(2) データベース（DB）整備と登録証再発行

期中登録、修正に適宜対応する体制を構築し、登録DBの整備を継続した。また、紛失等による再発行に適宜対応し、導入初年度の混乱を緩和した。

○再発行枚数：59枚

(3) 登録証の運用

競技会において、登録証による参加資格の確認や会場入場制限等を実施し、参加資格確認業務の適正化と合理化および競技会におけるセキュリティレベルの向上に貢献した。

5. 競技役員の育成に関する事業【公3.5】

(1) 研修会等の開催、教材の作成

競技役員の技能、知識、資質の向上や解釈の統一化を図るために競技会、日本代表の練習試合等を活用して講習会を開催した。他競技団体との連携を強化することにより、参考となる育成プログラム等の取り入れを行い、育成システムの向上を図った。

使用教材を継続的に整備して、各都道府県協会、ブロック協会、関係団体に配布し、各団体が開催する講習会での使用により全国の知識、解釈レベルの統一化を図った。

○開催実績（各1回）：

全国統一ルール研修会、上級審判講習会、TD講習会、TO講習会、UM講習会、A級審判員昇格講習会

(2) 国内大会への派遣

競技会の円滑な運営に資するために、大会規模、レベルに応じた競技役員を選考、派遣した。

○延べ派遣者数（全国大会及びブロック大会）

TD：19名（国民体育大会ブロック大会9名含む）

TO：92名、UM 15名、審判員 192名

(3) 国際大会への派遣

国際大会の競技役員としてFIHからの指名者に加え、JHAで選考のうえ国際大会に適任者を派遣した。派遣者には参加報告書の提出を求め、本人の国際レベルの競技運営に関する知識、技能、解釈の習得に加え、習得ナレッジの蓄積、国内への展開を図った。

○延べ国際大会派遣者数：

T0 : 1 名、ジャッジ : 2 名、審判員 : 10 名

(4) 資格認定

競技会の安全かつ円滑な運営に資することのできる技役員としての技能、見識、資質等を実技、筆記等の講習、試験に基づき認定した。認定にあたっては、JHA の指定する認定講師による判定と資格審査室による承認の両方を要することとし、慎重な認定を行った。

○公認競技役員認定者数

TD : 0 名、T0 8 名、ジャッジ 139 名、UM 1 名、A 級審判員 1 名

国際審判員 (FIH の推薦に基づく) : 0 名

(5) 女性競技役員の育成

女子の国際大会の競技役員は女性だけで運用している状況であるものの、国内では女性の競技役員が不足している現状を打破するために、女性の競技役員の重点育成、女性の活動・活躍の機会の増加を図った。

○競技役員の男女比 (女 : 男)

T0 : (1 : 3)、国際審判員 (1 : 1)、A 級審判員 (1 : 9)、B 級審判員 (1 : 5)、

○延べ女性国際大会派遣者数 : 7 人

(6) 国際情報収集と国際交流

国際大会派遣競技役員等を通じ、国外の競技役員等との関係を構築し、国際的な技術動向、規則解釈・運用、大会運営等のトレンドを把握した。把握内容は実情を勘案しつつ適宜国内への展開を図った。

国際動向や規則検討状況等の情報収集を重厚化させるために、FIH、国外協会の要職者等との関係を深化させた。

国際関係構築および競技役員育成ため、国外との競技役員交換プログラムを実施し、国内競技役員を国外の大会に派遣し、国外からの派遣者を国内の競技会に受け入れた。

○実施回数 : 3 回 (シンガポール、香港)

6. アンチドーピングに関する事業【公 6】

アスリートの安全を守るために日本アンチドーピング機構 (JADA) に継続加盟。JADA 主催の講習会に参加し、最新情報の取得に努めた。取得情報の国内展開を図ると共に、アンチドーピングの重要性、理解浸透のためのアウトリーチ活動、全国大会においてドーピング検査を実施し、ホッケーファミリーからの規程違反の発生を抑止した。

○アウトリーチ活動参加者数 : 約 200 名 ドーピング検査 : 7 大会、72 検体

アンチドーピング規程違反件数 : 0 件

7. ホッケー競技関係規則の検討、周知・提供事業【公 1.5】

FIH が制定する競技規則をもとに、国内用のホッケー競技規則 (ルールブック) を制定した。制定された規則をふまえ、6 人制ホッケー競技規則を制定した。ホッケーファミリーの利便性のため、JHA ホームページからデータのダウンロードを可能とした。

国際大会の運営にできるだけ近づけるため、FIH の競技運営規程体系に沿った競技運営規程を制定

し、より円滑な大会運営と競技レベルの向上に貢献した。また、FIH からの通達に加え、国外協会の要職者等との関係を深化させ、国際動向を先取りしつつ、規程類の見直し、通達を適宜行った。

○制定、改定した規程類数：7

ホッケー競技規則（ルールブック）、競技運営規程、公認競技役員規程、登録規程、ユニフォーム規定、人工芝基準、ハンドブック、各種通達

8. 施設基準、用具提供事業【公 1.5】

安全性を確保およびホッケー競技発展のため、競技レベルに応じた満たすべき人工芝ピッチの仕様・基準を制定し、規定を満たす人工芝ピッチの敷設促進、公認を推進した。

施設や用器具の規定を制定し、適宜検定を行った。他競技団体との連携を強化し、他競技で利用している秀でたシステムや用具類をホッケー競技に適用を図った。

○認定人工芝数：43

9. 広報活動に関する事業【公 1】

(1) メールマガジン

名称：「ホッケーデジタルマンスリーマガジン」／発信月：毎月中旬～下旬発信

(大会日程により変更有)

目的：速報性と印刷媒体との共存を図り、各大会の試合結果や本協会事業の各種情報を

幅広く詳細に提供する。(無料・ダウンロード可 vol.9 5月ダウンロード実績 1,751)

(2) イヤーブック

名称：「ホッケーマガジン・イヤーブック」/毎年1回5月下旬発行

販売単価：2,000円(税込)

目的：記録性・保存性を重視した編集方針の下、年度における JHA 主催の各種大会記録や

本協会事業の情報を詳細に掲載する。

【普及・広報活動に関する取り組み】

■「2020 東京オリンピック」に向けて、ホッケー競技が日本国内に浸透するよう、より機能的な広報活動を行った。そのため、「マガジンチーム」「WEBチーム」「マスコミチーム」に広報委員会を分類した。

■メディアとの交流を密にし、継続的に記者発表やプレスリリースを行うと共に、中央紙や在京キー局は勿論、ホッケーの情報を求めている地方紙や地方局との連携を強化し、取材体制をサポートした。そのためにも、男女日本代表の「2016 リオデジャネイロオリンピック」出場を果たせるよう広報委員会としても積極的にバックアップして盛り上げた。

■公式ホームページの内容充実とスピード化、インターネット情報の充実を図った。デザインやスピーディーな更新、フォルダの整理や動画の掲載を充実させ、公式サイトへのアクセスを 3,000/日実現を目指す。(2015.4～2016.3 実績 訪問数/696,971 訪問人数/105,764 平均ページビュー 3.4)

また動画については、新たに小・中学校の配信の実施を図った。

- インターネットツールを活用し、適宜幅広い情報を効率良く提供した。
- 各都道府県協会との協働による、地域活動報告の継続的な広報活動を推進した。

10. マーケティングに関する事業【収1】

我が国におけるホッケー競技の普及及び進行に関する事業目的の為、長期的な財政基盤確立に賛同する協賛企業とのパートナーシップ強化と、新たな協賛企業の獲得を目指して、本事業を実施した。

(1) 株式会社T.F.K・SMB Cコンシューマーファイナンス株式会社との契約

株式会社T.F.Kとブロンズ契約、SMB Cコンシューマーファイナンス株式会社とシルバー契約を結んだ。

【マーケティングに関する取り組み】

- 長期的な収入基盤確立のため、オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と、事業毎の複数のスポンサー獲得計画の策定。
- 協賛企業の確保と新規協賛企業の拡大。
- 関連団体に対応する各事業部設置と、活動促進策。
- 財政基盤確立のため、地域団体事業委員会を中心に、各委員会による積極的な財源確保。

11. 国際活動に関する事業【公1】

【国際活動に関わる取り組み】

- 日本ホッケーの強化を目指し、FIH（国際ホッケー連盟）とAHF（アジアホッケー連盟）と各国協会と連携しながら活動を行った。
- 2020年東京オリンピックを迎える新しい国際委員会としての体制を構築した。
- U-16から代表レベルまで広範囲に関係のあるオーストラリアと包括協定を作成した。
- 本委員会は委員長を含め7名の国際委員が仕事を分担してほぼ毎日のFIH,AHFその他の国々（本年度はインド、パキスタン、マレーシア、オマーン、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国、チリ、ブラジル、アルゼンチン、英国、スコットランド、アイルランド、オランダ、ドイツ、ベルギー、スペイン、フランス等）に連絡を取って事業を進めた。
- 日本代表チーム（シニア・ジュニア・ユース）の公式国際大会の参加の支援活動（参加の手続き・宿舍確保等の連絡及び交渉・練習試合の設定・情報収集）を行った。
- 日本代表チームの海外遠征を以下の如く強化本部と共に企画し執行した。

代表男子 : インド遠征、フランス遠征、ワールドリーグセミファイナル（アルゼンチン）

代表女子 : 8ヶ国対抗（ニュージーランド、昨年3/4月）、ベルギー・イギリス遠征、ワールドリーグセミファイナル（ベルギー）、米国遠征、韓国招聘、8ヶ国対抗大会（ニュージーランド、今年3/4月）。

ジュニア男子 : U21 アジアカップ（マレーシア）

ジュニア女子 : 中国遠征・U21 アジアカップ（中国）

ユース男子 : オーストラリア遠征（高体連が企画・実施）、日韓交流事業（韓国遠征）

ユース女子 : オーストラリア遠征（高体連が企画・実施）、日韓交流事業

12. (公社) 日本ホッケー協会諸会議等

平成 27 年度総会・理事会等の開催日程

(1) 定時総会

開催日程：平成 27 年 6 月 6 日（土）午後 2 時～

開催場所：アットビジネスセンター東京駅 302 号

(2) 理事会

第 1 回 開催期日：平成 27 年 5 月 15 日（金）

開催場所：CIVI 研修センター新大阪東

第 2 回 開催期日：平成 27 年 6 月 6 日（土）午前 11 時～

開催場所：アットビジネスセンター東京駅 302 号

第 3 回 開催期日：平成 27 年 6 月 6 日（土）午後 5 時 25 分～

開催場所：アットビジネスセンター東京駅 302 号

第 4 回 開催期日：平成 27 年 7 月 25 日（土）午後 3 時～

開催場所：アットビジネスセンター東京駅 304 号

第 5 回 開催期日：平成 27 年 10 月 9 日（金）午後 1 時～

開催場所：岸記念体育会館 101 号室

第 6 回 開催期日：平成 28 年 1 月 23 日（土）午後 1 時～

開催場所：岸記念体育会館 4 階特別会議室

第 7 回 開催期日：平成 28 年 3 月 12 日（土）

開催場所：岸記念体育会館 4 階特別会議室

【上記以外に関する取り組み】

- (公財) 日本オリンピック委員会並びに (公財) 日本体育協会の諸事業に参画し、各事業の円滑な運営を図った。
- 財政基盤強化の為、新規事業を立案し実施することで依り一層の収入増を図った。
- スティックカード ((公社) 日本ホッケー協会会員証) の充実と、カード発行の依り一層のスピード化を図った。
- 内外の治安情勢に鑑み、諸活動を実施するにあたり、万全の危機管理体制を築いた。
- 組織運営体制の充実を図り、マネジメント機能強化のガイドラインを設けた。
- 倫理委員会を設け、倫理に関する基本となるべき事項を定めることにより、本協会の目的と事業運営の公正を図った。
- 国際競技大会及び国内競技大会において、環境保全についての啓発と実施に取り組んだ。
- 個人情報保護法の遵守と周知徹底を図った。
- 「2020 東京オリンピック」に向けて特別委員会を設置し、競技運営・施設・組織の充実を図った。